

# アダプテッド・スポーツ科学専門領域専門領域

村上祐介・竹内亮・三木由美子（専門領域広報担当）

## 1. あらまし

アダプテッド・スポーツ科学専門領域は、2005年11月に専門分科会として設置され、2012年4月1日より専門領域へと名称が変更となった。アダプテッド・スポーツとは、ルールや用具をその人に適合（adapt）することによって、障がいのある人はもちろんのこと、幼児から高齢者、体力の低い人であっても参加することができるスポーツのことをいう<sup>1)</sup>。このアダプテッド・スポーツという概念は、障がいのある人がスポーツを楽しむためには、その人自身と、その人を取り巻く人々や環境を問題として取り上げ、両者を統合したシステムづくりこそが大切であるという考え方に基づくものである。

従来、アダプテッド・スポーツに関する報告等は、運動生理学、運動心理学、バイオメカニクス、体育社会学、測定評価といった分野の中で行われてきた。しかし、それぞれの分野の視点を中心に議論が行われてきたために、アダプテッド・スポーツの特徴である様々な方法論を駆使して統合的に議論する場としては十分とはいえないことから、この領域の発表の場の設定が求められてきた。

本専門領域の発足から約15年となった2022年から2023年にかけては、学会大会のキーノートレクチャーにおいて、改めてアダプテッド・スポーツの過去と未来について議論する機会を設けた。そこでは、共生社会やダイバーシティといった昨今の社会動向の中で、障害のある人に閉じないアダプテッド・スポーツの概念について議論された。学際性、多様性、適合、個々、エンパワメント、自己決定、自己実現といったキーワードから今後の方向性について考えていく必要性が指摘された<sup>2)</sup>。さらに、対象論、方法論という枠組みからアダプテッド・スポーツの研究活動の在り方が議論された<sup>3)</sup>。

本専門領域は、一般化や理論化が難しい領域であり、他の専門領域と比較すると発展途上と言わざるを得ない。しかしながら、対象となる“人”を取り巻く環境やその“人”に対する実践を大事にし、きめ細やかな知見を積み重ねていくことで、真に誰もがスポーツの恩恵を享受することができると考えている。

## 2. 内外の研究動向

アダプテッド・スポーツに関連する学術研究団体の一つに、日本アダプテッド体育・スポーツ学会（JASAPE）がある。JASAPEはこれまでに28回の大会を開催しており、本専門領域とも密接に関係する学会である。また、JASAPEからは学術雑誌として2003年から「アダプテッド・スポーツ科学（旧障害者スポーツ科学）」が年1回刊行されており2023年には第21巻が発行されている。さらに本専門領域においても、オンラインジャー

ナルとして「アダプテッド体育・スポーツ学研究」の発行が開始され、2024年には第8回の刊行を予定している。また国際学会としては、IFAPA（国際障害者体育・スポーツ学会）やASAPE（アジア障害者体育・スポーツ学会）がある。

### 3. 科学的知見の応用の状況

アダプテッド・スポーツに関する研究は、スポーツの競技力向上、高齢者の介護予防・健康づくり、障害児等の運動指導や発達支援、様々なスポーツの普及・発展、医療的リハビリテーションなど多義にわたるものであり、その学際性が一つの特徴である。さらに最近では、通常学級におけるインクルーシブ体育の実践やパラリンピック等（例えば2020東京パラリンピック）が与える社会への影響など、社会的な動向に関わる研究が蓄積されている。事例的な分析や実践報告が多い中で、広く社会の変化の様子を捉えようとする研究も蓄積されてきた。多様な専門性を有する研究者が集まる学際性を強みにできるように、今後も丁寧な研究活動を続けていく必要がある。

### 4. 学校体育や大学体育に活かすべき知見

学校体育においては、近年、多様な子どもの実態に応じた体育授業の在り方が求められている。一方で、実態に合わせた体育授業に対して難しさを感じている教員も多い。本専門領域ではこれまで、主に特別支援学校での体育授業に関する実践的な研究が報告されてきたが、最近は通常学級での取り組みも報告されるようになってきた。そこでは、“アダプテッドの視点”を持つことの必要性が指摘されており、本専門領域で積み重ねてきた研究がすべての子どもへの体育にとって大きな役割を担うことが分かってきた。実践研究を今後も積み重ねていくとともに、多様な子どもの実態を想定した体育授業の理論的枠組みの構築についても検討していく必要がある。

### 5. 若手研究者へのメッセージ

本専門領域では2023年度より、「AdS次世代フォーラム」が発足し、若手研究者を中心とした自主的な取り組みとして活動が開始した。現在から未来へのアダプテッド・スポーツの役割を考える機会となっている。アダプテッド・スポーツに興味をもつ若手研究者には、過去の知見を大切にしながらも、従来の研究手法に縛られることなく、新たな視点からの課題解決を目指し、本専門領域の発展に向けた新たな研究成果を期待している。

### 6. 引用文献

- 1) 矢部 京之助・他（2005）アダプテッド・スポーツの科学～障害者・高齢者のスポーツ実践のための理論～。市村出版：東京。
- 2) 安井友康（2022）：「アダプテッド」の系譜 ～用語のもつ意味を解き明かす。日本体育・スポーツ・健康学会第72回大会（順天堂大学）、アダプテッド・スポーツ科学専門領域キーノートレクチャー。
- 3) 河西正博（2023）：アダプテッド・スポーツの未来 次世代研究者からの発信。日本体育・スポーツ・健康学会第73回大会（同志社大学）、アダプテッド・スポーツ科学専門領域キーノートレクチャー。

(2024年5月17日執筆)